

平成27年度事業報告書

I 会務報告

1. 会員の状況について

	正会員	準会員	計
今期末会員数	2,881名	0名	2,881名
前年度末会員数	2,902名	0名	2,902名
増減	-21名	0名	-21名

支部別会員数は添付諸表資料1のとおり

2. 賛助会員について

1) 団体など

北海道農業共済組合連合会
北海道農業協同組合中央会
ホクレン農業協同組合連合会
(一社)ジェネティクス北海道

2) 個人

なし

3. 名誉会員の推薦について

該当なし

4. 役職員の異動について

1) 役員等

平成27年6月17日、第3回定時代議員会および引き続き開催された第4回理事会において新役員が選任され、同日就任した。

2) 職員

平成27年4月 清水 秀仁 (技術主幹) 採用
平成27年5月 安田 準 (常任編集委員) 採用

5. 日本獣医師会特別委員会、職域別部会委員会委員 (本会分)

狂犬病予防体制整備特別委員会 会長 高橋 徹、 荻和宏明 (北大)

女性獣医師支援特別委員会 監事 嶋田直子
荒井 桂 (NOSAI オホーツク)

学術・教育・研究委員会 理事 田村 豊、 中尾敏彦 (元山口大)

学術振興検討小委員会 理事 田村 豊、 中尾敏彦 (")

獣医学教育の整備・充実検討小委員会 谷山弘行 (酪農大)

産業動物臨床・家畜共済委員会 理事 岡本真平

小動物臨床委員会	理事	前谷茂樹
家畜衛生委員会	理事	梶原 渉
公衆衛生委員会	理事	宮上禎肇
動物福祉・適正管理対策委員会		向井 猛 (札幌市)
総務委員会	専務理事	森 清一
獣医師職業倫理向上委員会	専務理事	森 清一
野生動物対策検討委員会		武田忠義 (北海道)、 福井大祐 (En Vision)
野生動物救護対策の在り方検討小委員会		黒澤信道 (NOSAI 道東)

6. 代議員会・理事会の開催について

1) 平成 27 年度 (第 3 回) 定時代議員会

日 時：平成 27 年 6 月 17 日 (水)

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

議案第 1 号 平成 26 年度事業報告書および財務諸表について

議案第 2 号 平成 27 年度事業計画および収支予算について

議案第 3 号 平成 27 年度会費などの賦課額について

議案第 4 号 平成 27 年度役員報酬について

議案第 5 号 平成 27 年度借入金の最高限度額について

議案第 6 号 役員を選任について

2) 理事会

【第 1 回】

日 時：平成 27 年 5 月 27 日 (水)

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 北獣関係諸会議
2. 日獣関係諸会議
3. その他諸会議
4. 北獣会誌編集委員の交代について
5. 傷病鳥獣等保護受託業務について

<議決事項>

1. 北獣次期役員候補者の選定について
2. 平成 26 年度事業報告書および財務諸表の承認について
3. 平成 26 年度決算監査の結果について
4. 平成 27 年度会費などの賦課額について
5. 平成 27 年度役員報酬について
6. 平成 27 年度借入金の最高限度額について

7. 平成 28 年度獣医学術学会地区学会の開催日程の変更について

<協議事項>

1. 平成 27 年度（第 3 回）定時代議員会の開催について
2. 北海道獣医師大会、北海道地区三学会の開催について
3. 牛白血病対策の進展について
4. 日獣役員及び部会委員の推薦について
5. 市外犬狂注済証取扱い要領の制定について
6. 日獣 2015 動物感謝デーの対応について
7. 全日本ホルスタイン共進会の開催について
8. その他

【第 2 回】（書面議決）

日 時：平成 27 年 6 月 9 日（火）

議 事

<提案内容>

次期理事会推薦役員候補者の変更について

【第 3 回】

日 時：平成 27 年 6 月 17 日（水）

会 場：ホテルヤマチ

議 事

<報告事項>

1. 地区獣医師会総会の開催概要について
2. 日獣関係諸会議
3. 狂犬病予防注射事業に係る事故の発生状況について

<協議事項>

1. 第 2 回理事会（書面決議）の結果について
2. 平成 27 年度（第 3 回）定時代議員会の開催について
3. 代議員会における書面等による議決権の行使について
4. 産業動物臨床部会並びに小動物臨床部会委員の委嘱について
5. 当面の事業推進について
6. 今後の予定

【第 4 回】

日 時：平成 27 年 6 月 17 日（水）

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<議決事項>

1. 会長、副会長、専務理事の選任について
2. 役員報酬等の執行について

3. 事業報告書の提出について

【第5回】

日 時：平成 27 年 7 月 29 日(水)

会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 職務執行状況（6月末）報告
2. 北獣関係
3. 日獣関係

<議決協議事項>

1. 支部長、支部事務局長の承認について
2. 各部会委員・北獣会誌編集委員の委嘱について
3. 特別委員会の設置と委員の委嘱について
4. 市外犬狂注済証取扱い要領の制定について
5. 「狂犬病予防注射業務における事故防止の為の心得と事故時の対処法について」の改訂について
6. 第 66 回北海道獣医師大会・北海道地区学会の開催について
7. 有珠噴火に備えた犬のマイクロチップ装着促進事業について

<協議事項>

1. 平成 29 年度北海道獣医師大会・地区学会の開催について
2. ゲート型リーダーの寄贈について
3. 動物愛護行事等への協賛について
4. 今後の予定
5. その他

【第6回】

日 時：平成 27 年 12 月 16 日(水)

会 場：会 場：北海道獣医師会館 会議室

議 事

<報告事項>

1. 11 月末職務執行状況について
2. 中間監査の結果について
3. 北獣諸会議等開催状況
4. 日本獣医師会関係他
5. 管理システムの進捗状況と今後の予定について

<議決協議事項>

1. 北海道医師会と学術協力の推進に関する協定の締結について
2. 北海道獣医師会個人情報管理規程及び特定個人情報等取扱規程の制定について
3. 小動物部会委員の追加委嘱について

4. 第30回世界牛病学会の対応について

<協議事項>

1. 北獣会館建設計画について
2. 平成28年度北獣代議員会の日程について
3. 支部経理のあり方について
4. 天売島における海鳥保護対策の進捗状況について
5. 平成27年度狂犬病予防注射事故発生状況と対応について
6. 次年度分狂犬病ワクチンの購入と供給について
7. 北獣の組織基盤強化対策について
8. 化血研狂犬病ワクチンへの対応について
9. 日本獣医師会獣医学術学会年次大会について
10. その他

【第7回】

日時：平成28年3月16日(水)

会場：会場：北海道獣医師会館 会議室

議事

<報告事項>

1. 2月末業務執行状況について
2. 北獣諸会議等開催状況
3. 北海道医師会との学術協力の推進に関する協定の締結について
4. 顧問弁護士との契約締結（平成28年1月）について
5. 管理システムの進捗状況と今後の予定について
6. 天売島における海鳥保護対策の進捗状況について

<議決協議事項>

1. 公益社団法人北海道獣医師会平成28年度（第4回）定時代議員会の開催について
2. 平成28年度事業計画について
3. 平成28年度収支予算について
4. 北獣会館建設計画について
5. 北獣諸規程等の一部改定について
6. 事務局長の任命について

<協議事項>

1. 職域理事（公衆衛生）の辞任（6/17）と補欠選任について
2. 狂犬病予防注射事業の推進について
3. 北獣大会・学会の開催計画について
4. マイナンバー制度対応について
5. 家畜人工授精師の超音波診断装置の利用について
6. 会費未納者の退会手続きについて
7. 平成27年度における動物愛護週間行事（道が主催または共催）の

開催状況について

8. その他

3) 監査

平成26年度決算監査	平成27年 5月20日(水)	北海道獣医師会館	会議室
監事会	平成27年 7月29日(水)	〃	
平成27年度中間監査	平成27年11月25日(水)	〃	

4) 三役会議

第1回	平成27年 5月22日(金)	北海道獣医師会館	会議室
第2回	平成27年 7月15日(水)	〃	
第3回	平成27年12月 8日(火)	〃	
第4回	平成28年 3月 8日(火)	〃	

5) 事務局長会議等

事務担当者会議	平成27年 8月11日(火)	北海道獣医師会館	
役員・事務局長合同会議	平成27年 9月10日(木)	〃	
事務局長会議	平成28年 3月 9日(水)	〃	

6) 各部会、委員会等

第1回小動物臨床部会	平成27年 4月23日(木)	北海道獣医師会館	
第2回小動物臨床部会	平成27年 7月14日(火)	〃	
産業動物臨床部会	平成27年 7月 7日(火)	〃	
野生動物部会	平成27年11月10日(火)	〃	
行政部会	平成27年10月 5日(月)	〃	
北獣会誌編集委員会	平成27年 6月29日(月)	〃	
役員候補者推薦管理委員会	平成27年 4月 3日(月)	〃	
第3回北獣会館建設計画検討特別委員会	平成27年10月19日(月)	〃	

7) 学会関係

第1回地区学会幹事会議	平成27年 4月30日(木)	北海道獣医師会館	
第2回地区学会幹事会議	平成27年 7月 3日(木)	〃	
地区学会学会長会議	平成28年 3月29日(火)	〃	

7. 各種規程、要領等の制定および改定について

- | | |
|------------|--|
| 第5回理事会において | ・市外犬狂注済証取扱い要領の制定
・狂犬病予防注射業務における事故防止の為の心得と事故時の対処法についての改定 |
| 第6回理事会において | ・北獣個人情報管理規程及び特定個人情報等取扱規程の制定 |

- 第7回理事会において
- ・北獣特定個人情報等取扱規程の改定
 - ・北獣講習会実施要領の改定
 - ・北獣職員給与規程の改定

8. 北獣会館の建設について

現北獣会館は、昭和53年に建設したもので、築後38年を経過しており、老朽化が進んでいるとともに、耐震性についても課題を抱えている現状にある。

この状況から理事会に建設計画検討特別委員会を設置し、今後の本部事務所のあり方も含め、検討してきた。この委員会報告を受け、理事会で検討を重ねた結果、以下のとおり取り進めることとした。

①本部事務所のあり方

本部事務所については、会館新築と貸し事務所賃貸の両者について経費の比較等を行った結果、会館新築が望ましいと判断した。

②会館新築の基本的な考え方

建設場所：現在地（西区二十四軒4条5丁目9-3）

建物概要：鉄筋コンクリート造 4階建延べ面積 250坪程度

1階駐車スペース、2、3階事務所 4階会議室

建設年度：本会創立80周年にあたる平成40年度の完成を目指す

建替えに要す費用概算：3億3千万円

③資金計画について

現有資金と現有土地の売却により、建設費用の半分弱をあて、不足分の具体的な調達方法については、今後さらに検討を進める。

9. 弁護士との顧問契約について

前顧問弁護士と契約解除により、平成27年4月から顧問弁護士不在が続いていたが、平成28年1月から札幌市内で法律事務所を開設している橋本智弁護士（橋本智法律事務所 Tel：011-272-1056）と顧問契約を締結した。

10. 広報活動

情報化社会に対応し、本会ホームページ等による広報活動の充実強化が求められていた。平成26年度ホームページの全面的なリニューアルを図り、会員への情報伝達の充実を図るとともに、一般市民を対象とした本会の活動紹介、動物病院の紹介等の充実強化を図った。

II 事業報告

公益目的事業1：獣医学術の振興・普及並びに人材の育成を図る事業

1. 獣医学術北海道地区学会・北海道獣医師大会の開催

1) 獣医学術北海道地区学会の開催

①平成 27 年度獣医学術北海道地区学会は 9 月 11、12 日、酪農学園大学において開催された。会員および会員外 582 名、来賓・関係機関など 90 名、合計 672 名の参加を得、石狩支部等道央 3 支部、学会幹事を中心とした会員の協力により整齊と運営された。

②今年後の本学会は、11、12 日、同じく酪農学園大学で開催された日本畜産学会第 120 回集会、12、13 日で開催された北海道畜産草地学会との連携開催とし、一方で参加登録することで、三学会の参加が可能となり、本会会員も畜産学会に参加されていた。

12 日午後、日本畜産学会、北海道畜産草地学会との共同開催による合同シンポジウム「乳用子牛における群管理のポイントと取り組み事例」が開催され、300 名を超える多くの先生方が参加された。また、11 日午後には、小動物獣医学会シンポジウム「犬と猫のぶどう膜炎～診断・治療のアップデート」がランチョンセミナーも兼ね、開催された。

③一般の発表演題は産業動物獣医学会 104 題、小動物獣医学会 48 題、獣医公衆衛生学会 18 題、合計 170 題となり充実した学会となった。

④両日の昼休みには、協賛会社の協力のもと 8 会場でランチョンセミナーを多彩な内容により実施した。

⑤各地区学会長賞、北獣会長賞、奨励賞については、学会終了後に開催された審査会において慎重に審議され、次のとおり選定された。

【平成 27 年度北海道地区学会優秀発表演題と発表者】

日本産業動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会長賞】

「網走管内公共牧場の牛で発生したミズナラのドングリが原因と考えられる中毒」

○横澤 泉¹⁾ 宮澤国男²⁾

¹⁾ NOSAI オホーツク ²⁾ 網走家保

「屈腱短縮モデルに基づいた先天性屈腱短縮症の屈腱切除術式の選択」

○佐藤綾乃 石井 理 鈴木一由

酪農大生産動物医療学

「牛ヨーネ病が農場に与える経済損失の推測」

○榊原伸一¹⁾ 相内花子¹⁾ 藤吉 聡²⁾ 宮根和弘³⁾ 菅野 宏¹⁾

¹⁾ 十勝家保 ²⁾ 宗谷家保 ³⁾ 上川家保

「フリーストール搾乳牛舎における防虫ネットの牛白血病ウイルス伝播防止効果」

○小原潤子¹⁾ 竹内未来²⁾ 高橋俊彦³⁾ 桜井由絵¹⁾ 平井綱雄¹⁾

¹⁾ 道総研畜試 ²⁾ NOSAI 道東 ³⁾ 酪農大循環農学

「雄馬における馬媾疹の発生について」

○登石裕子^{1,2)} 角田修男¹⁾ 桐澤力雄²⁾ 織田康裕³⁾ 田上正明¹⁾

橋本裕充¹⁾ 加藤史樹¹⁾ 鈴木 吏¹⁾ 山家崇史¹⁾ 田谷一善¹⁾

¹⁾ 社台コーポレーション ²⁾ 酪農大感染・病理学 ³⁾ NOSAI 日高

【北海道獣医師会長賞】

「競走馬せり市場のためのレポジトリレントゲン検査に従事する獣医師の被ばく線量の検証」

○妙中友美 長嶺夏子 津田朋紀 川崎洋史 大久保正人 中島文彦
ノーザンファーム

「*E. coli* と *Klebsiella spp.* による牛の乳房炎の診療経過の特徴」

○大久保宏平 千徳芳彦
NOSAI オホーツク

【奨励賞】

「子牛の呼吸器疾患における長期マクロライド療法の有効性」

○手嶋咲子¹⁾ 佐藤綾乃¹⁾ 加藤敏英²⁾ 小岩政照¹⁾ 鈴木一由¹⁾
¹⁾ 酪農大生産動物医療学 ²⁾ NOSAI 山形

「内視鏡検査による子牛内耳炎の病態評価と治療」

○堂福莉菜¹⁾ 川本 哲¹⁾ 山中俊嗣²⁾ 福田茂夫³⁾ 樋口豪紀⁴⁾
小岩政照¹⁾
¹⁾ 酪農大生産動物医療学 ²⁾ 上川北 NOSAI ³⁾ 道総研畜試
⁴⁾ 酪農大衛生・環境学

日本小動物獣医学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「右心機能の低下は僧帽弁疾患犬の生存期間を短縮する」

○森田智也¹⁾ 中村健介²⁾ 大菅辰幸¹⁾ 森下啓太郎²⁾ 佐々木 東¹⁾
大田 寛¹⁾ 滝口満喜¹⁾
¹⁾ 北大獣医内科学 ²⁾ 北大附属動物病院

「ソマトロピン産生性下垂体腫瘍によりインスリン抵抗性を呈した糖尿病の猫の1例」

○和泉雄介¹⁾ 細谷謙次²⁾ 早川小百合³⁾ 森下啓太郎⁴⁾ 華園 究⁴⁾
星野有希⁴⁾ 高木 哲⁴⁾ 金 尚昊²⁾ 奥村正裕²⁾
¹⁾ 北大獣医先端医療学 ²⁾ 北大獣医外科学 ³⁾ 北大獣医内科学
⁴⁾ 北大附属動物病院

「犬の肺炎診断における客観的で簡便な指標による超音波検査の有用性の検討」

○竹内恭介¹⁾ 中村健介¹⁾ 森下啓太郎¹⁾ 佐々木 東²⁾ 大田 寛²⁾
滝口満喜²⁾
¹⁾ 北大附属動物病院 ²⁾ 北大獣医内科学

【北海道獣医師会賞】

「犬の原発性免疫介在性血小板減少症（pIMTP）に関する回顧的調査」

○山下時明 山下律子
真駒内どうぶつ病院

「測定系の違いが犬 CRP 濃度測定結果に与える影響」

○玉本隆司¹⁾ 坂口鷹子²⁾ 阿部雄樹²⁾ 安田知世³⁾ 上原拓也³⁾
打出 毅¹⁾
¹⁾ 酪農大伴侶動物医療学 ²⁾ モノリス ³⁾ 酪農大附属動物病院

【奨励賞】

「汎用性が高く臨床的にも有用な犬の左心房機能評価法の検討；僧帽弁逆流の重症度評価について」

○川元 誠¹⁾ 中村健介²⁾ 大菅辰幸¹⁾ 森田智也¹⁾ 佐々木 東¹⁾ 森下啓太郎²⁾ 大田 寛¹⁾ 滝口満喜¹⁾

¹⁾ 北大獣医内科学 ²⁾ 北大附属動物病院

「胸骨切開下ベントラルスロット術にて治療した頸胸椎移行部における椎間板ヘルニアの犬の3例」

○大脇 稜¹⁾ 越後良介²⁾ 星 清貴²⁾ 和泉雄介³⁾ 高木 哲²⁾ 星野有希²⁾ 細谷謙次¹⁾ 奥村正裕¹⁾

¹⁾ 北大獣医外科学 ²⁾ 北大附属動物病院 ³⁾ 北大獣医先端獣医療学

日本獣医公衆衛生学会（北海道）

【北海道地区学会賞】

「乳廃牛のと畜検査における第四胃変位手術の所見」

○平下俊治¹⁾ 上林亜紀子²⁾ 瀬戸萌未²⁾ 一戸佳奈²⁾ 高橋 守³⁾

¹⁾ 日高食肉衛検 ²⁾ 八雲食肉衛検 ³⁾ 岩見沢食肉衛検

【北海道獣医師会賞】

「牛にみられた紡錘形細胞肉腫の1例」

○秋山貴洋 舘江弘明 松本斉子 通山佳之

帯広食肉衛検

【奨励賞】

「アマミノクロウサギの消化管寄生蠕虫相調査」

○松本亮介¹⁾ 吉田 敦¹⁾ 福本真一郎¹⁾ 伊藤 結²⁾ 鏑 雅哉²⁾ 木元侑菜²⁾ 服部正策³⁾ 倉石 武³⁾

¹⁾ 酪農大感染・病理学 ²⁾ 環境省奄美野生生物保護センター

³⁾ 東大奄美病害動物研究施設

2) 第66回北海道獣医師大会の開催

①第66回北海道獣医師大会は9月11日（金）ホテルエミシア札幌を会場に、藏内勇夫日獣会長、伊達忠一参議院議員ほか多数の来賓を迎え盛会裡に開催された。

②大会では本部提案として「狂犬病予防対策の強化について」および「女性獣医師がより活躍できる環境の整備に向けて」の2提案を満場一致で決議した。

③大会に引き続き、前年度三学会優秀発表表彰、北獣会誌投稿優秀論文表彰、狂犬病予防事業顕彰および学位（博士号）取得者顕彰を行った。狂犬病予防事業顕彰者および学位取得顕彰者は以下のとおり。

狂犬病予防事業顕彰者

有我 克也（石狩支部） 谷田佳司明（石狩支部） 峰岸 義則（空知支部）

前澤 満（胆振支部） 加藤 隆明（オホーツク支部）

学位（博士）取得顕彰者

博士（獣医学） 岡井 和彦（一般社団法人北海道軽種馬振興公社）

論文題目：胃内視鏡を用いた健康子馬の胃粘膜の発達過程と胃潰瘍を発した子馬の経時的胃粘膜病変の比較観察および治療効果の経時的評価

取得大学：酪農学園大学

取得年月日：平成27年3月25日

3) 第30回世界牛病学会2018札幌の開催について

第30回世界牛病学会2018札幌を下記のとおり開催することとして、第30回世界牛病学会2018組織委員会を立ち上げ、開催準備に入った。組織委員長には、酪農学園大田島先生が就任するとともに、本会からも三役等が委員会、部会に参画し学会の成功に向け全面的に協力することとした。

世界牛病学会は、牛の獣医学に関する国際学会として1960年に設立され、現在世界の50カ国が加盟している。学会は、2年に一度、世界各地で開催され、毎回、60-70カ国から2000-3000名の獣医師が参加しており、世界および開催国の牛獣医療の進歩に貢献している。

開催会場：札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1丁目）

開催日時：2018年8月28日（火）～9月1日（土）

参加者数（想定）：約50カ国・地域 約2,000名（海外1,400名、国内600名）

主催：第30回世界牛病学会組織委員会、日本獣医師会日本産業動物獣医学会

共催：北海道獣医師会

2. 北海道獣医師会雑誌の発行について

獣医学術の振興・普及および諸行事の案内、活動報告等の情報提供の媒体として北海道獣医師会雑誌を毎月定期に発刊した（第58巻第4号～12号および第59巻第1号～第3号）。また、会誌編集委員会において、前年度本会誌に掲載した学術論文から優秀なものとして次の3編を選定し、第66回獣医師大会において顕彰した。

平成26年度北海道獣医師会雑誌優秀論文表彰

産業動物獣医学部門

「十勝管内における平成19年から24年の牛異常産原因検索成績」（原著）

太田 永恵¹⁾ 伊藤 満²⁾ 齊藤真里子²⁾ 小岸 憲正³⁾

¹⁾ 元十勝家保 ²⁾ 日高家保 ³⁾ 石狩家保

「一農場において哺乳子牛にみられた壊死桿菌感染による壊死化膿性舌炎の複数発生事例」（短報）

石中将人 湯浅良太 及位公哉 吉田 隆 井ノ上俊樹 角田 浩

長嶋和典

上川北NOSA I

小動物獣医学部門

「骨および軟骨増生を伴う浸潤性脂肪腫の犬1症例」（短報）

星野 有希
北大附属動物病院

3. 国際交流について

本会は相互の獣医学術の向上と交流を深め、互いに発展することを目的として、韓国の慶尚北道獣医師会と姉妹提携を結んでいる。

昭和54年当時の山下会長、酒井副会長が訪韓以降、これまで数年間隔でそれぞれ6回訪問しあって交流してきた。25年に本会が韓国慶尚北道を訪問しており、今度は本会が招聘する順番になっているが、韓国において口蹄疫等の伝染病の発生が継続していることから27年度の招聘は見送った。

4. 北海道医師会との学術協力連携について

高病原性鳥インフルエンザをはじめ多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まる中、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められている。

このような状況を受け、日本獣医師会は、平成25年11月にこの理念に基づき、学術協力を推進する旨の協定書を締結し、連携シンポジウム等を開催している。

このような協力体制を北海道においても構築し、両者が連携して人と動物の共通感染症をはじめとする様々課題に取り組んでいきたいということで、昨年末、道医師会に申し入れをし、協議をしていた。

本年3月7日、北海道医師会館において調印式が行われ、北海道医師会長瀬清会長と北海道獣医師会高橋徹会長が協定書に署名した。

28年度に両者の連携により、人と動物の共通感染症について市民公開シンポジウム等を開催し、市民に対する啓発活動の強化を図っていく予定である。

5. 技術向上に係る講習会、研修会の開催について

本部主催として小動物講習会、獣医公衆衛生講習会、管理獣医師講習会および野生鳥獣救護技術講習会を開催するとともに、支部主催により産業動物・小動物ブロック講習会、新技術講習会を実施した。また、地区獣医師会や関係団体の主催する研修会、講習会等に後援・協賛し、支援した。

開催状況は添付諸表資料4のとおり。

公益目的事業2：人と動物が共生する豊かで健全な社会の発展に貢献する事業

1. 狂犬病予防注射事業の推進について

1) 狂犬病予防注射事業は本会の主体となる公益目的事業として、各支部実施班の協力のもとで実施したが、その注射頭数は186,940頭（前年比 3,570頭減）で、ここ数年減少傾向が続いている。支部別注射頭数は添付諸表資料2のとおり。

狂犬病侵入防止および狂犬病予防注射推進について北海道および市町村担当部局と協力し啓発活動の推進が必要である。

2) 狂犬病予防事業に係る事故について、ワクチンによる副反応事故についても、北獣

狂犬病予防注射事故対策要領に沿って補償することとしている。平成 27 年度には犬の事故は死亡 3 頭、回復 41 件の報告があった。犬の事故は多くはアナフィラキシー反応だが、犬の飼養者個々にチラシ等で注意喚起するなど、きめ細かい対応がなされ、それぞれ支部実施班で適切に対応された。なお、死亡例は注射後日数が経過してからの発症であり、また剖検も出来なかったことから副反応による死亡か否かは明確とならなかった。

- 3) 狂犬病予防注射業務に永年にわたり尽力された 5 名の会員に対し、北海道獣医師会会長表彰を行い、その功績を称えた。
- 4) 現状の狂犬病ワクチンは 1 バイアル 10 ドース分であることから、バイアル開封後の日数経過等により廃棄を余儀なくされる。ワクチンメーカーに対し、1 バイアル 1 ドース製品の開発、供給を要請している。なお、このことは日獣の狂犬病予防体制整備特別委員会でも検討され、同様の要請がなされている。

2. 動物愛護の推進について

- 1) 北海道から委託を受け実施している野生傷病鳥獣保護業務について、会員動物病院などの協力を得て 84 病院、418 頭羽（前年比 32 頭羽増）の傷病鳥獣の診療、救護費用を補填した。

また、野生動物部会の先生方の協力を得て、これら野性傷病鳥獣の診療技術向上のため技術講習会を釧路（釧路湿原野生生物保護センター）において開催するとともに、札幌では円山動物園においてゼニガタアザラシをテーマに野生動物講演会を開催した。

- 2) 同じく北海道から委託を受け実施している所有者の判明しない犬猫などの診療、保護委託業務では 48 病院、354 頭（前年比 27 頭増）の保護・診療費用の一部を補填した。

札幌市（札幌小獣が受託）、旭川市、函館市においても、それぞれ市からの受託により同事業を実施し、それぞれ 9 病院 11 頭、3 病院 6 頭、2 病院 5 頭の保護治療を行った。

- 3) 札幌市内デパートにて開催された小学生を対象にした仕事体験イベントの「夏休み！こども体験アカデミー」に出展し、子供たちの動物愛護や獣医師の仕事に対する理解を深めた。

収益事業 1：不動産賃貸事業

1. 所有地の貸付け

本会が発寒に所有する土地（670m²）を駐車場用地として（株）コラボに貸付けした。

2. 所有建物の貸付け

北獣会館の事務室スペースは家畜畜産衛生指導協会、さっぽろ獣医師会、札幌市小動物獣医師会、日本馬事協会北海道事務所に貸付けするとともに、会議室は各種会議、研修会等に貸付けを行った。

収益事業 2：共同購入事業

会員が業務上必要とする各種様式印刷物や診断薬を一括購入し、領付した。

その他事業 1：福利厚生事業

「福利厚生規程」にもとづき、病氣見舞金、弔慰金および生花をそれぞれ添付諸表資料5のとおり贈呈した。

その他事業2：受託事業

1. 狂犬病予防注射済票交付事業

道内173市町村市から委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、市町村に代わり、狂犬病予防注射を受けた犬の飼養者に対し、狂犬病予防注射済票の交付を行った。

飼養者が居住していない市町村で狂犬病予防注射を受けた場合、注射実施者、責任者や各支部事務局の協力により、狂犬病予防注射済証を当該自治体に送付する事業を実施した。

2. 犬の登録及び鑑札交付事業

道内6市から委託を受け、狂犬病予防注射に従事する会員が、狂犬病予防注射時に市町村に代わり犬飼養者の便宜のため犬の登録受付及び鑑札の交付を行った。

3. 国際交流事業

北海道・大学・NOSAIなどの関係機関の協力を得て18年間に渡り、実施してきた開発途上国獣医師を対象とした「産業動物の獣医技術研修」（（独）国際協力機構（JICA）の委託）が25年度を持って終了したことから、現在休止中である。今後、新たな研修事業の受託を目指し、研修内容の企画、立ち上げについて国際交流部会で検討を進める。

4. 動物愛護週間における啓発活動

札幌市小動物獣医師会主催による「動物愛護フェスティバル2015 in SAPPORO」、江別市小動物開業獣医師会が主催する「2015動物愛護フェスティバルinえべつ」、北獣胆振支部が主催する「胆振動物愛護フェスティバル」等の行事に協賛するとともに、日本獣医師会が主催する「動物感謝デーin Japan 2015」に参画し、動物愛護思想の普及啓発に努めた。

5. 海鳥等保護対策事業

天売島において野良ネコが増加し、この影響で稀少な海鳥が激減している。この海鳥保護のため、羽幌町等からの委託を受け、不妊去勢手術、馴化、譲渡等で野良ネコを減少させる事業を実施している。

これまでに野良ネコ134匹を捕獲し、うち106匹を島外に搬出している。平成27年度は海鳥繁殖地・市街地における42匹を捕獲し、島外搬出、譲渡を進めたが、秋からドブネズミによる被害拡大をうけ、ネコの捕獲作業を中断している。

また、環境省、道庁、羽幌町、本会、北海D0ぶつネット等による「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会（会長：高橋徹北獣会長）を立ち上げ関係機関連携のもとに活動を進めている。